

農村婦人の貧血におよぼす因子—とくに栄養との関係について  
 広島女大家政 岸田典子

目的 農村の変貌にともない、農業労働は婦人の手に移ってきた。このような現象は農村婦人に過重労働を肩荷し、各種障害の発生を余儀なくさせている。とくに、近時農村婦人の貧血が注目されるようになった。それで、今回は婦人の栄養状態、生活内容を分析し、血液検査の資料をもとに比較検討することによって、貧血におよぼす栄養、農業労働、地域特性、年令などの因子について検討した。

方法 調査対象：世帯数—53世帯，世帯人員—233名，20才以上の女子の数—82名。

調査時期：農閑期—昭和46年8月，農繁期—昭和46年10月。

調査内容：栄養摂取状況調査，動物性たん白質摂取状況調査，自給野菜摂取状況調査，生活時間調査，農夫症および自覚症状調査。

- 結果
- (1) 婦人の栄養摂取率は、世帯平均のそれより低い傾向がみられ、とくにカルシウム、鉄が低値を示した。
  - (2) 貧血の発現率は非常に高く、とくに40代に問題がみられた。
  - (3) 貧血程度別に婦人の栄養摂取率をみると、全般的に栄養摂取の悪いものに血液成分の低値を示すものが多かった。
  - (4) 貧血者は動物性食品のなかでは、肉・乳類の摂取が少なく、魚類の摂取が多い傾向がみられた。また、加工食品の摂取率も高かった。
  - (5) 生活時間をみると、貧血程度の重いものほど農作業時間が長く、睡眠時間が短い傾向があった。